

ふたたび

# ヒロシマの 平和を疑わ!

田母神俊雄氏が語る! 広島発、真の平和メッセージ!!

「核廃絶」と「平和」の間に潜む溝、NPT再検討会議の成果と限界…。  
「核との共存が当分続く」(オバマ演説)時代を、  
被爆国・日本が賢明に生きる方策とは。  
いま、核・安全・平和の現状と将来に、  
タブーなき洞察を専門的見地から聞く。

**講師** 第29代航空幕僚長 **田母神俊雄氏**

昭和23年福島県生まれ。防衛大卒業後、航空自衛隊に入隊。平成19年、航空幕僚長に就任。平成20年10月、民間の懸賞論文へ応募した作品が政府見解と対立するものであったことが問題視され、幕僚長を更迭、定年退官となる。11月参議院防衛委員会に参考人招致されたが、論文内容を否定するつもりはないことを改めて強調した。

**緊急特別提言** **高田 純氏** (札幌医科大学教授)

「被爆者は目覚めよ! シルクロードの真実」

2010 **8.6** [金]  
(平成22年)

18:00~20:00 (開場17:00)

リーガロイヤルホテル広島

4F ロイヤルホール (広島市中区基町6-78)

チケット **前売** 1,500円 **当日** 2,000円

※お早めにお買い求めください。

**【チケット販売所】**

- デオデオ本店プレイガイド
- チケットぴあ (Pコード 617-461)  
店舗/広島バルコ・フタバ図書MEGA・  
フタバ図書GIGA・アルパーク天満屋・  
天満屋八丁堀店・福屋広島駅前店ほか
- サークルKサンクス

- メール・FAXでも受付中(7月25日まで)  
氏名、枚数、郵送先、電話番号を送信ください。  
入金確認後、チケットを郵送いたします。  
郵便振替 01320-2-5277 加入者名 日本会議広島  
※恐れ入りますが、手数料はご負担願います。  
メール 86@jp-pride.com FAX 082-831-6206

■ボランティアスタッフ募集  
■ポスター掲示場所のご提供  
TEL082-831-6205まで

**主催** 日本会議広島・「日本の誇りセミナー」実行委員会 広島市安佐南区川内4-11-18 TEL082-831-6205

**協力** 平和と安全を求める被爆者たちの会 <http://realpas.com>

**協賛** 日本シルクロード科学倶楽部・長崎原爆展示をただす市民の会・新聞アイデンティティ・日本の心を伝える会・放射線防護情報センター・日本ウイグル協会

ホームページでも情報発信中!!  
<http://jp-pride.com>



# 私たちも協力しています。

## 『平和と安全を求める被爆者たちの会』

最初に、原爆で斃されたすべての人びとに深い哀悼の心を捧げます。

私たちは、被爆者や二世三世たちを中心にする会として、平成22(2010)年の広島原爆忌の日に、日本会議広島が主催する田母神俊雄氏講演会に協力しています。

私たちにあって、原爆忌は被害者の鎮魂の日であると同時に、平和や安全について深く考える最も重要な日でもあります。昨年は広島市長からは日程変更要求がありました。理由は「静謐な環境の中で祈る日だから」というものでした。

私たちは「祈りの日だからこそ、静謐な環境の中で祈りかつ考えなければならない」と思う者たちです。

現在の国際情勢の中で、この国の置かれた状況を冷静に見つめ、そして、広い専門的視野から、核の将来と、現在の平和と安全の間に横たわる複雑で困難な数々の問題を、ありのままに正しく認識しなければならないと考えます。このためには、それがどのような見解であれ、いつであれ、私たちは聞く用意があります。またその権利もあります。誰に聞くか選ぶ自由もあります。

田母神氏は今年の8月6日には関西地方での講演会を予定されていました。私たちは「会」の主旨から、「もっと田母神氏の意見を聞くべきである」と結論付けました。そこで私達は、その講演主催団体と協議を重ねました。そして、私たちに開催の権利を譲ってもらったのです。関西の団体にこの場を借りて感謝申し上げます。

市長以外からも昨年は「被爆者の心を傷つける講演会の中止要求」という複数団体の連名要求もありました。しかし、これは的外れです。

—— なぜなら、私たちは被爆者だからです。

「被爆者の心に配慮して田母神は広島に来るな」というデモもありました。しかし、これも間違っています。

—— なぜなら、私たちは被爆者だからです。

「被爆者の受けた体や心の傷を知るべきだ」との声もありました。しかし私たちは十分に知っています。

—— なぜなら、私たちは被爆者だからです。

昨年の米国オバマ大統領の「核無き世界を目指す」という演説から、今年のNPT再検討会議の過程を捉えて、“世界は核廃絶の動きに向かっている”、という見方がこの国では広がっているように思えます。しかし、70年ほど前には世界に核兵器はありませんでした。でも、その時代の世界は戦争に覆われていました。「核廃絶」と「戦争のない世界」との間には、深い溝があるのではないのでしょうか。

さらにオバマ大統領は「核なき世界は自分の生存中には実現しない」と言っています。ならば、その間、核兵器は厳然として存在するのです。核被害の実態を語り続け、世界に発信することは重要で必要なことです。しかし、それだけで明日「核の無い戦争のない世界が実現する」と思うほど、私たちの力を過信してはいけません。

ものごとを知るには様々な切り口から観察し、検討し、研究することが必要です。まして、この国のなかで特定の人たちだけの意見で他の見方を否定することがあってはなりません。昨年の様々な「抗議」と称する声や行動は、私たちから見れば、単に「異論への嫌悪感の表明」のようなものでした。正直に言って私たちはこれまでのいわゆる「反核運動」の姿に少なからぬ「違和感」も持っていますが、だからといって、私たちはそれらの運動に、“感覚”を基にした直接的「抗議」などをするつもりは全くありません。

「核なき世界」と「戦争のない世界」との間の深く超えがたい溝をどう克服するのか、そしてすぐには到来しない「核無き世界」が来るまでの間、私たちと子孫の平和と安全はどう構築するのか、当面続く核時代の中で私たちの持つ力の限界も認めて、冷静で、現実的で、多面的な観点から、いくつもの方策を考え出していかねばなりません。

そしてそれは、核の悲惨さを最もよく知っている被爆者であればこそその責務であると確信します。

平成22(2010)年5月20日

『平和と安全を求める被爆者たちの会』  
事務局長代理 池中美平

サポーター登録をお願いしております。〔会の趣旨など詳しくはホームページをご覧ください。〕

<http://realpas.com>